

歴史・公民・職業指導・情報)の各教諭専修免許状が取得可能である。

3) 教育研究機能を活かした社会貢献と連携

本学を構成する教育研究組織はそれぞれの専門分野の教育研究を活かし、地域と密着した社会貢献、連携を行っている。たとえば、本学のソーラーカープロジェクト(現ソーラーカープロジェクト同好会)は、平成4(1992)年以降、国内外の多数の競技会において上位入賞を果たしているばかりでなく、近隣の小・中学校を訪問し、環境・エネルギー問題についての教育・啓蒙活動と地域振興に貢献している。「芦屋大学教育相談所」は、発達障害の教育研究を中心に、芦屋市公民館と共催で市民講座を開催している。スポーツの分野においては、「芦屋学園スポーツモダニズム」の名称で、地域スポーツの振興に貢献してきた。このような活動を通して、大学としての社会的使命を果たしている。

このような本学の個性・特色を活かし、建学の精神と伝統を継承発展させ、「真のエリート」すなわち「目に見えない学力=人間力を備えた人材」を育てることが、本学の教育ビジョンである。

II. 沿革と現況

1. 本学の沿革

学校法人芦屋学園は、昭和12(1937)年に開校した芦屋高等女学校に始まる。初代校長は岡田五兎であった。岡田は、帝国大学でE.ハウスクネヒトから教育学を初めて修めた一人であり、校長時代、生徒一人ひとりに対し、きめ細やかな教育をしていたことが伝えられている。

時代は変わり、昭和39(1964)年、福山重一により芦屋大学が創設された。まさしく高度経済成長期にあたり「人間不在」が懸念された時期でもある。いち早く「人間尊重」を重視した福山は、著名な教育学研究者を集め、教育学を中心とする大学づくりを行った。当時、本学は我が国における教育学研究の中心的存在と言うべき様相を呈していた。その後、福山が確立した経営者2世の育成を中心とする教育方針は、多くのオーナー経営者層から支持され、ほかの大学に見られない個性と特色を生み出した。しかし、平成5(1993)年、福山重一が逝去し、平成7(1995)年には阪神淡路大震災により学舎が倒壊し、平成14(2002)年には支持層であるオーナー経営者をバブル経済の崩壊により失った。危機感を持った教授会が大学運営に積極的に関与する形で大学の建て直しを進めることになったが、大学が少子化の影響を受けることを予想しつつも、大学の経営改革は十分とはいえなかった。平成17(2005)年4月、学校法人芦屋学園の寄附行為が改訂され、理事会が大学運営を主導する体制が取られることになった。

平成19(2007)年度、創立以来の「教育学部」から「臨床教育学部」と「経営教育学部」の2学部制へ移行し、現在、社会が求める「人間力」を備えた人材を育成するための「教職教育」「経営教育」「スポーツ教育」そして「キャリア教育」を中核に、教育・研究と社会貢献を推進している。

以下、大学創設以後の沿革を時系列にまとめる。

芦屋大学

昭和 39(1964)年 1月	芦屋大学 教育学部 教育学科 設置認可
昭和 39(1964)年 4月	芦屋大学 教育学部 教育学科 創立
昭和 40(1965)年 12月	芦屋大学 教育学部に産業教育学科 増設認可
昭和 41(1966)年 4月	芦屋大学 教育学部 産業教育学科 増設
昭和 43(1968)年 3月	芦屋大学大学院 (博士課程、修士課程) 設置認可
昭和 43(1968)年 4月	芦屋大学大学院 教育学研究科 教育学専攻修士課程・博士課程開設
昭和 47(1972)年 1月	芦屋大学 教育学部 英語英文学教育科 増設認可
昭和 47(1972)年 4月	芦屋大学 教育学部 英語英文学教育科 増設
昭和 48(1973)年 1月	芦屋大学 教育学部 児童教育学科 増設認可
昭和 48(1973)年 4月	芦屋大学 教育学部 児童教育学科 増設
昭和 60(1985)年 3月	芦屋大学大学院 教育学研究科 英語英文学教育専攻 (修士課程) 増設認可
昭和 60(1985)年 4月	芦屋大学大学院 教育学研究科 英語英文学教育専攻 (修士課程) 増設
昭和 61(1986)年 3月	芦屋大学大学院 教育学研究科 技術教育専攻 (修士課程) 増設認可
昭和 61(1986)年 4月	芦屋大学大学院 教育学研究科 技術教育専攻 (修士課程) 増設
昭和 61(1986)年 11月	芦屋学園創立 50 周年記念式典挙行
昭和 63(1988)年 11月	芦屋大学創立 25 周年記念式典挙行
平成 15(2003)年 4月	ビジネス研究センター開設 (平成 26(2014)年度よりキャリア支援センターに統合)
平成 15(2003)年 12月	芦屋大学創立 40 周年記念式典挙行
平成 17(2005)年 4月	国際交流センター開設、教職教育支援センター開設
平成 18(2006)年 4月	芦屋大学 教育学部 英語英文学教育科を 国際コミュニケーション教育科に名称変更
平成 19(2007)年 4月	芦屋大学 臨床教育学部、経営教育学部の 2 学部 4 学科に改組、 産業教育学科を経営教育学科に名称変更
平成 21(2009)年 4月	臨床教育学部教育学科にスポーツ教育コース開設
平成 22(2010)年 4月	芦屋大学大阪キャンパス開設 経営教育学部経営教育学科にキャリア教育コース開設 芦屋学園スポーツ教育センター開設
平成 23(2011)年 4月	キャリア支援センター (現 就職部) 開設
平成 24(2012)年 1月	芦屋学園スポーツモダニズム活動開始
平成 25(2013)年 4月	臨床教育学部国際コミュニケーション教育科を募集停止 臨床教育学部教育学科に国際教養学コース開設 経営教育学部経営教育学科にバレエコース開設
平成 26(2014)年 11月	芦屋大学創立 50 周年
平成 28(2016)年 4月	臨床教育学部教育学科にダンスコース開設

2. 本学の現況

- ・大 学 名 芦屋大学
- ・所 在 地 〒659-8511 兵庫県芦屋市六麓荘町 13 番 22 号
〒530-0018 大阪府大阪市北区小松原町 3 番 3 号 OS ビル 16 階
- ・学部の構成 臨床教育学部
教育学科
児童教育学科
国際コミュニケーション教育科（募集停止）
経営教育学部
経営教育学科
- ・大学院の構成 教育学研究科 教育学専攻（博士前期課程・博士後期課程）
英語英文学教育専攻（修士課程）
技術教育専攻（修士課程）
- ・学生数、教員数、職員数（平成 28(2016)年 5 月 1 日現在）

1) 学生数

（学部）

学部	臨床教育学部									経営教育学部			合計		
	教育学科			児童教育学科			国際コミュニケーション教育科			経営教育学科					
学年	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	65	20	85	12	6	18	—	—	—	59	16	75	136	42	178
2 年	70	14	84	13	9	22	—	—	—	50	9	59	133	32	165
3 年	81	25	106	15	21	36	—	—	—	52	19	71	148	65	213
4 年	70	33	103	14	21	35	2	0	2	48	13	61	134	67	201
計	286	92	378	54	57	111	2	0	2	209	57	266	551	206	757

（大学院）

専攻	教育学研究科												合計		
	教育学専攻 （博士前期課程）			技術教育専攻 （修士課程）			英語英文学専攻 （修士課程）			教育学専攻 （博士後期課程）					
学年	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	2	3	5	1	0	1	0	0	0	1	0	1	4	3	7
2 年	5	3	8	1	0	1	0	0	0	1	0	1	7	3	10
3 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	2	1	1	2
計	7	6	13	2	0	2	0	0	0	3	1	4	12	7	19

芦屋大学

2)教員数

(学部)

学部	臨床教育学部						経営教育学部			合計		
	教育学科			児童教育学科			経営教育学科					
職名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教授	17	1	18	4	1	5	18	0	18	39	2	41
准教授	3	0	3	4	3	7	2	0	2	9	3	12
講師	4	1	5	0	0	0	2	0	2	6	1	7
助教	0	1	1	0	0	0	1	0	1	1	1	2
計	24	3	27	8	4	12	23	0	23	55	7	62

(大学院)

専攻	教育学研究科												合計		
	教育学専攻 (博士前期課程)			技術教育専攻 (修士課程)			英語英文学専攻 (修士課程)			教育学専攻 (博士後期課程)					
職名	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
教授	3	0	3	6	0	6	2	0	2	2	1	3	13	1	14
准教授	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
講師	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
助教	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	3	0	3	6	0	6	2	0	2	2	1	3	13	1	14

※学部の教員が兼務

3)職員数

	男	女	計
正職員	27	22	49
嘱託職員	0	0	0
臨時職員他	2	7	9
計	29	29	58

※法人所属の職員を含む